

役員

会長	中川 博次	京都大学名誉教授
特別顧問	脇 雅史	参議院議員
特別技術顧問	宇野 尚雄	岐阜大学名誉教授
	道上 正規	鳥取大学名誉教授
	間宮 清	
技術顧問	山田 正	中央大学理工学部教授
	中川 一	京都大学防災研究所教授
理事長	都丸 徳治	公益社団法人日本技術士会 相談役
理事	大島 一哉	株式会社建設技術研究所 代表取締役会長
	成田 賢	応用地質株式会社 代表取締役社長
	能村 光太郎	太陽工業株式会社 代表取締役会長兼社長
	齋藤 周	三井化学産資株式会社 代表取締役社長
監事	瀬古 一郎	中央開発株式会社 代表取締役社長
	尾形 清彦	旭化成ジオテック株式会社 代表取締役社長
技術開発委員長	三木 博史	株式会社三木地盤環境工学研究所 所長
		元独立行政法人土木研究所 技術推進本部長

会員企業

旭化成ジオテック株式会社	中央開発株式会社
いであ株式会社	株式会社東京建設コンサルタント
応用地質株式会社	東洋紡株式会社
川崎地質株式会社	日本工営株式会社
基礎地盤コンサルタンツ株式会社	株式会社ニュージェック
株式会社建設技術研究所	パシフィックコンサルタンツ株式会社
シーアイ化成株式会社	三井化学産資株式会社
大日本プラスチック株式会社	三菱樹脂インフラテック株式会社
株式会社ダイコンサルタント	八千代エンジニアリング株式会社
太陽工業株式会社	ユニチカ株式会社
株式会社田中	

(50音順に記載)



RIRT 一般社団法人リバーテクノ研究会
Research Institute of River Technology

一般社団法人リバーテクノ研究会 事務局

〒154-0001 東京都世田谷区池尻 2-33-16

●TEL 03-3414-5091 ●FAX 03-3791-5454 ●e-mail:info@rirt.or.jp

●URL:http://www.rirt.or.jp

RIRT 一般社団法人リバーテクノ研究会
Research Institute of River Technology

RIRTは各界との知的連携により、河川の環境及び防災に関する技術の開発と普及を促進します。

会長挨拶



中川 博次

Hiroji Nakagawa

一般社団法人リバーテクノ研究会会長
京都大学名誉教授

一般社団法人リバーテクノ研究会(以下「本研究会」という)は、民間21社が学識経験者と連携して、河川の環境や防災・減災に関する多様な社会的ニーズに機動的かつ柔軟に適用可能な技術の開発・普及・啓発を目的に、平成21年9月1日に非営利型一般社団法人としてスタートしました。

今日まで会員各社の不断の御尽力と御支援、技術顧問の先生方及び関係諸機関の御指導により順調な発展を続けてこられたことに心から感謝の意を表します。

これまでの研究におきましては、本研究会が開発の核と位置付けている「モバイルレビー」(可搬式堤防、「リバーテクノレビー」と称する)の製品開発、河川堤防の調査点検のためのリバーテクノコーン、堤防の質的強化のためのリリーフウェル工法、ドレーン工法、水防シートの開発、さらにゼロメートル地帯の地震水害に対する減災技術の開発に関しては、水防マニュアルの作成、広域的被災情報ネットワークの構築、地震による特殊堤の被災状況を早期に把握するためのセンサーの開発など、課題ごとにワーキンググループを編成し、研究に取り組んでおります。その成果については既にいくつかの河川現場で適用する段階に至っております。

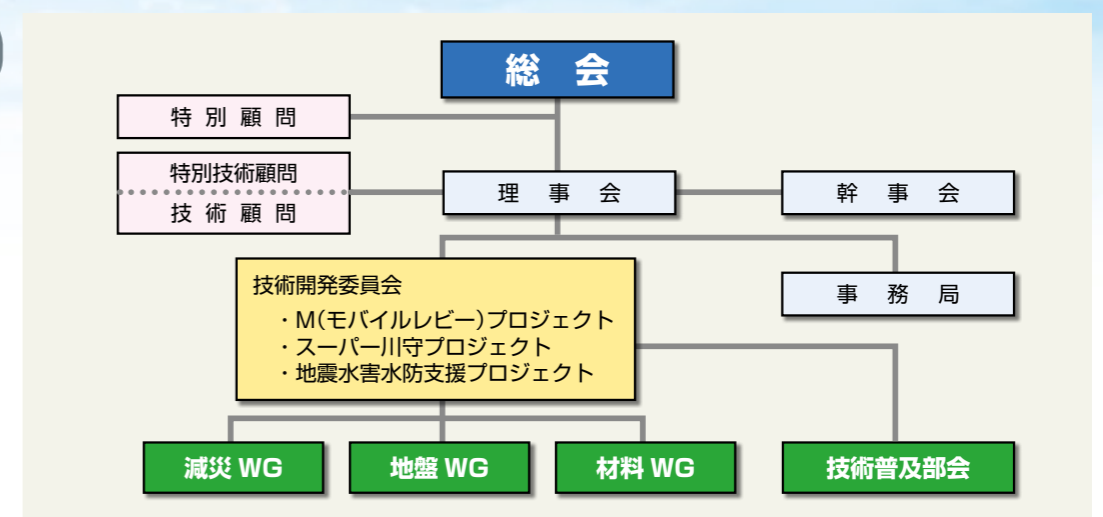
平成23年3月に発生した東日本大地震による未曾有の津波災害、7月の新潟・福島豪雨災害、9月の記録的豪雨による紀伊半島での洪水・土砂災害、さらに平成27年9月の鬼怒川での破堤氾濫による甚大な洪水災害など、今まさに相次ぐ巨大災害の発生によって、最悪の事態を想定した減災・危機管理対策の必要に迫られております。そのため、ハードな防災対策に加え、住民の危機意識に支えられた自助、共助のソフト対策の構築が求められております。

こうした地域防災の強化のために、本研究会では「スーパー川守」制度を設け、地域の行政機関や各種団体と連携して、河川施設の管理や減災対策の提案などの活動も積極的に展開しております。

また、本研究会の目的である国民の幅広いニーズに対応するため行政関係機関との意見交換会を通じて相互の連携を深めるとともに、技術顧問の学識経験者との意見交換会、講演会を定期的に開催して、会員相互の技術力の向上、共通認識の形成も図っております。

今後はこれまでに築いてきた成果の普及・展開に努めるとともに、堤防を含む河道を中心とした減災技術の開発に主軸を置き、その実用化と新たな市場開拓に向けて邁進してまいり所存ですので、引き続き変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

組織図



「M(モバイルレビー)プロジェクト」

リバーテクノ研究会では、「モバイルレビー」の研究開発と普及を推進しています。「モバイルレビー」は、洪水時のみ機能し、普段は河川景観を阻害しない可搬式・可動式の機能的な堤防です。

気候変動にともないゲリラ豪雨が頻発するなど、治水対策が急がれる中、「モバイルレビー」の可能性に大きな期待が寄せられています。



三角水のう



ハイブリッドパネル堤



フローティング止水デッキ

「スーパー川守プロジェクト」

リバーテクノ研究会では、重点プロジェクト「スーパー川守プロジェクト」を発足させました。「スーパー川守」とは、「自助」「共助」「公助」がバランスよく調和した、より適切な河川管理、より効果的な河川防災を実現するため、河川管理者、地方自治体、住民、その他の団体等の利害関係者と緊密に連携し、高い技術的専門性と豊かな経験に基づき、スーパーバイザーとして効率的な河川防災に関する地域貢献ができる人材です。

このプロジェクトでは、「スーパー川守」の活動を支援し、情報の共有や現場ニーズに応じた技術提供を通じて、地域防災力の強化に貢献するための活動に取り組みます。



水防演習・講習会への参加協力



治水・水防の課題情報共有と協働



モバイルレビーの技術協力

「地震水害水防支援プロジェクト」

リバーテクノ研究会では、「ゼロメートル地帯における地震水害に対する水防災技術の研究開発」に取り組んでいます。仮に地震被害を受けた河川堤防から河川の流水が堤内地に流出する事態に至れば、地震被害を受けた堤内地に二次被害を与えるおそれがあります。

地震発生から浸水・湛水に至るプロセスに応じて有効な水防技術・修復技術を活用して被害軽減を図るための研究開発を行います。



堤内地の浸水予防イメージ



陸開部の浸水予防イメージ



特殊堤目地開き部の漏水防止イメージ

事業概要

本研究会は、設立の目的を達成する為に、河川の環境及び防災に関して次の事業を行います。

- (1) 工法、調査技術及び製品の調査、研究並びに開発
- (2) 工法、調査技術及び製品の評価並びに改善
- (3) 工法、調査技術及び製品のガイドラインの作成
- (4) 技術の普及、啓発及び広報
- (5) 技術の建議及び提言
- (6) 国内外の関係機関との情報及び技術の交流
- (7) 会員の技術力及び開発力の向上
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- (9) 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業